

# 防衛北海道

Bouei Hokkaido  
February 2015  
Hokkaido  
Defense Bureau  
Ministry of Defense



Vol.38



Photo : (上) 平成26年度方面隊戦車射撃競技会において戦闘射撃を行う10式戦車 (北海道大演習場島松地区) \* 関連記事掲載  
(下左) 連隊指揮所で防護マスクを装備する隊員 (下右) 防護シェルターを建設する隊員 (下段はいずれも7師団訓練検閲時)  
(写真提供 : 第7師団広報)

編集・発行 防衛省北海道防衛局 広報誌等編集委員会

札幌市中央区大通西12丁目 札幌第3合同庁舎  
Tel.011-272-7579

<http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/>



## 杉田宏一 北海道防衛局長新年御挨拶

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より北海道防衛局への御支援と御協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年大きな話題として、ノーベル物理学賞を赤崎勇、天野浩、中村修二（米国籍）の3氏の受賞があり、その喜びに日本中が大いに沸き立ちました。

受賞理由である「明るく省エネ型の白色光源を可能にした高効率な青色LEDの発明」により、長寿命で省エネのLEDは瞬く間に世界中に普及し、現在では、今年春に開院予定の新自衛隊札幌病院を初めとして多くの自衛隊施設にも使用され、地球規模での省エネが期待されているところです。

今後もこのような人類に多くの恩恵をもたらす発明が、引き続き現れることを期待します。

さて、安全保障面では、中国による東シナ海、南シナ海での活動の急速な拡大・活発化、北朝鮮による核・ミサイル開発など、我が国を取り巻く安全保障環境は様々な課題や不安定要因がより顕在化・先鋭化し、一層厳しさを増しています。

防衛省・自衛隊は、国民の生命・財産と領土・領海・領空を守り抜くため、新たな防衛計画の大綱・中期防衛力整計画に基づき、自衛隊の体制強化に取り組むとこととしております。

北海道防衛局は、防衛力発揮のための基盤である防衛施設の円滑かつ効果的な運用、安定的使用を確保するため、関係地方公共団体等との連携を一層強化するとともに、防衛省・自衛隊の政策や活動について、広く道民の皆様にご理解いただけるよう努めてまいり所存です。

引き続き皆様の御理解、御協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

新しい年が、皆様にとりまして幸多い年となりますようお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。



北海道防衛局長 杉田 宏一



## 北海商科大学の学生へ講演

平成26年12月5日（金）、北海商科大学において、北海道防衛局及び自衛隊札幌地方協力本部による講演を実施しました。

これは、同大学の菊地均教授から、学生の職業選択の参考となるような講演について依頼を受け、当局としても防衛省・自衛隊の業務内容等について、より多くの方々に知って頂く良い機会と捉え実施したものです。

講演は、当局職員から①地方防衛局の業務②防衛省の事務官・技官の業務について、自衛隊札幌地方協力本部員から③自衛官の業務について、合わせて約50分間の説明を行いました。

当日は、同大学第305教室において、約40名の学生に講演を聴講していただきました。学生の皆さんは、防衛省・自衛隊の業務について初めて知る内容も多く、興味津々の様子でした。

北海道防衛局では、今後も防衛施策への御理解を深めて頂くために、講師派遣を実施してまいりますので、御興味のある方は当局ホームページに掲載している実績を参考に、お問い合わせください。

### 【講演実績】

<http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/koushi/koushi.html>



講演の風景



北海道防衛局・自衛隊札幌地方協力本部



## 北海道大演習場において目頃の訓練の成果を披露 ～平成26年度方面隊戦車射撃競技会を実施～

平成26年10月17日（金）から22日（水）までの間、北海道大演習場島松地区第1戦車射場において、第7師団（師団長：太田牧哉陸将）の担任のもと、方面隊戦車射撃競技会が実施されました。

本競技会は、各師団・旅団の戦車部隊等の戦車射撃能力の向上を図ることを目的として行われ、師団隷下の3コの戦車連隊、偵察隊のほか、第2戦車連隊（上富良野）、第5戦車大隊（鹿追）、第11戦車大隊（北恵庭）の7部隊から46コ小隊（1コ小隊4両）が参加しました。

競技は、演習弾、対戦車榴弾及び連装銃を使用した一連の状況における小隊戦闘射撃で、連・大隊対抗、中隊対抗、小隊対抗及び支援部隊の部で競技を実施しました。

また、第2戦車連隊が保有する10式戦車1コ小隊がオープン参加し、方面隊戦車射撃競技会において初めて小隊戦闘射撃を披露しました。

今年度は、新たな取り組みとして、昨年度の競技会の教訓から、演習弾を使用した戦車標的の現出時間を制限し、迅速・果敢な射撃の向上を図るとともに、標的に対し友軍を現出させて標的を確実に識別して射撃することとし、更には、MG移動標的を追加し射撃技術の練度向上を図り、迅速・果敢な小隊戦闘射撃に着意しました。

参加部隊は、この競技会を目標に1年間積み重ねてきた練成の成果を発揮すべく、機甲師団としての誇り、部隊の伝統と名誉、機甲科隊員としてのプライドをかけて5日間の激しい戦いを繰り広げました。

競技会期間中は、道内外から訪れた約500名の研修者が戦車射撃を目の当たりにし、迅速・果敢な戦車の迫力を肌で感じ、驚きの声を上げていました。

競技会結果は、【連・大隊対抗の部】において第72戦車連隊、【中隊対抗の部】においては、第72戦車連隊第3戦車中隊、【小隊対抗の部】においては、第71戦車連隊第1戦車中隊第1小隊が「ベストプラトゥーン」の栄光を勝ち取りました。また、連隊を整備支援した【直接支援部隊の部】では、第7後方支援連隊第2整備大隊第2戦車直接支援中隊が表彰されました。



方面隊戦車射撃競技会を視察する統裁官  
田邊北部方面総監、担任官太田師団長



ベストプラトゥーンの栄光を勝ち取った  
第71戦車連隊第1戦車中隊第1小隊



初弾必中の射撃をする第72戦車連隊



第72戦車連隊を整備支援した第7後方支援連隊  
第2整備大隊第2戦車直接支援中隊



田邊北部方面総監からベストプラトゥーン  
キャップを授与される山中小隊長



# 防衛技官 南スーダンPKOから帰国!

## ～ 国造り支援・第6次隊任務完遂 ～



左藤防衛副大臣の訓示



帰国報告会における両名（背広姿）



写真左 森田室長補佐  
写真右 小山内係長

平成26年12月21日に南スーダンでの国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）を終えた第6次隊の帰国行事が陸上自衛隊帯広駐屯地で行われました。

第6次隊には、防衛省装備施設本部（東京・市ヶ谷）の施設計画課施設設計室 森田室長補佐と、技術調査官付 小山内係長の2名の防衛技官（土木職）も参加し、約6か月間の長期に渡る南スーダンでの任務を完遂、平成26年12月6日に小山内係長が、同月20日に森田室長補佐が新千歳空港に帰ってきました。

帰国行事には、左藤防衛副大臣、宇都外務大臣政務官、道内自衛隊高級幹部、上司・同僚など大勢の方々が出席し、両名を含む派遣隊員と家族の方々の労をねぎらいました。帰国報告会では、任務完了報告に続き、国際平和協力本部長賞の伝達が行われ、左藤防衛副大臣から、派遣隊員の任務完遂と無事帰国した喜び、留守を守った家族の方々への慰労などの訓示があり、その後に行われた慰労会食では、任務を完遂し帰国した実感と家族との久しぶりの再会に満面の笑みで喜びをかみしめる派遣隊員達の姿で溢れ、現地での活動が充実したものであったとの印象を強く受けました。

現地での防衛技官の任務は、派遣施設隊長の指揮の下、UNMISS司令部等と派遣施設隊との間における案件形成段階での技術的助言と、案件実施の際の設計及び施工など技術的な支援であり、第6次隊では、主に、橋梁の補修、簡易道路の補修・整備、排水路整備などの案件に豊富な技術力を発揮したと聞いています。

今回の重要な案件のひとつは、ジュバ国際空港に新たに航空機誘導路を確保するため、既存の水路が横断する場所に、大型航空機が地上走行する荷重にも耐えられる横断暗渠（鋼製丸管を鉄筋コンクリート構造物で保護した排水路：長さ約44m、幅約5m、深さ約2m）を構築する案件でした。

アフリカの自然が猛威をふるう現地の気候は、赤道に近く、連日気温40℃を越える酷暑と強烈な日差しや予期しない突然の激しいスコールなどに見舞われます。

また、現地では、入手・利用可能な建設資機材がほとんど流通しておらず、この整備を行ううえで不可欠な鉄筋や生コンクリートなどの資材が計画通り調達できない、建設工事の経験者が確保できず施工がままならないなど、国内の建設工事環境では考えられない制約を受ける厳しい条件下での計画・設計・施工を余儀なくされましたが、両名は、この案件が直面する幾つもの問題や試練に対し、持てる活力・知力・技力を駆使した工夫を施しながら、約4か月の工期を経て、無事に完成に導いたそうです。

両名がこのような厳しい任務を完遂できたのは、常に前向きに任務に臨む姿勢と、これまで長年に渡り携わってきた建設工事などの実務経験で培われた広範な知識と技術力によるものです。

北海道防衛局調達部職員は、同じ防衛技官である両名の姿勢を範として、常に前向きに任務に臨むとともに、自衛隊施設の建設業務のみならず多様な任務に応えられるような知識と技術力を培い続けていきたいと思ひます。



横断暗渠の状態を確認する森田室長補佐



損傷した航空誘導路を調査する小山内係長

※両名は平成26年6月4日に新千歳空港から南スーダンに向け出発しました。  
この出発の様子については、広報誌「防衛北海道」の、Vol.35「防衛技官 南スーダンPKO（第6次隊）へ出発！」に掲載していますので、ぜひ御覧下さい。<http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/>

## 北海道防衛施設地方審議会開催



石崎会長の御挨拶

平成26年11月10日、北海道防衛局において平成26年度北海道防衛施設地方審議会が開催されました。

同審議会は、北海道防衛局長からの諮問に応じて自衛隊の施設等に係る不動産等に係る権利の対価の額に関する事項や自衛隊等の使用により不動産等について生じた損失の補償額等に関する事項等を調査審議し、これらに関し必要と認める事項を同局長に建議する機関として、北海道防衛局におかれています。

今年度は北海道防衛局長からの諮問事項はありませんでしたが審議委員の皆様方に防衛行政に対する御理解と当局の役割に対する御認識を深めて頂く機会として業務説明及び現地視察を実施しました。

当日は悪天候にも関わらず、石崎会長をはじめ7名の委員全員が出席されるとともに北海道防衛局からは杉田局長、

石尾次長のほか総務、企画、調達、管理各部長並びに防衛補佐官が出席し、会長御挨拶、局長挨拶、北海道防衛局業務説明が行われました。また、審議会当日は2年間の委員任期満了の日でしたが、全委員の方々には引き続き委員の任に就いて頂くことを確認し、審議会冒頭に委員の互選により石崎氏が引き続き会長を務める旨の報告がありました。

審議会委員並びに杉田局長及び各部長は、業務説明終了後、現地視察のため陸上自衛隊真駒内駐屯地に移動し、真駒内駐屯地司令（渡部誠司一等陸佐）を表敬、駐屯地の概況説明を受けた後、駐屯地史料館、真駒内駐屯地に隣接して建設中の北海道地区唯一の自衛隊病院である自衛隊札幌病院（注）の工事現場を視察しました。

会長はじめ各委員は、駐屯地史料館では屯田兵の移住当時に始まり、駐屯地開設当初から現在までの展示物についての解説に、自衛隊札幌病院の工事現場では最新の医療設備や災害時における施設の対応策についての説明などに熱心に耳を傾けられ、これまでの自衛隊や新しい施設の運用に強い関心を示されていました。

当局では、これからも同審議会など様々な機会を活用し、防衛省・自衛隊の各種取組について皆様方の御理解と御協力が一層得られるよう努めてまいります。



杉田北海道防衛局長の挨拶

（注）現自衛隊札幌病院（昭和30年開院）が経年劣化等により老朽化が著しいため、陸上自衛隊真駒内駐屯地の隣接地に平成24年3月から病院本体工事に着工。  
平成27年4月開院予定



自衛隊札幌病院視察の様

### 北海道防衛施設地方審議会委員

氏名	職名
(会長) 石崎 岳	学校法人北海学園 特任教授
(会長代理) 武田 英彦	弁護士
阿部 和加子	書道わか葉会 主宰
江原 弘晃	みずほ信託銀行株式会社 札幌支店長
小島 治雄	東日本高速道路株式会社 北海道支社長
稲葉 勝巳	一般財団法人 日本不動産研究所 北海道支社長
山内 睦夫	山貴服飾株式会社 代表取締役社長



## 陸上自衛隊 北部方面隊

### 東北方面隊で行われた「みちのくALERT2014」に 北部方面隊の部隊が参加

北部方面隊（総監：田邊揮司良陸将）は、11月6日から9日までの間、東北方面隊管内において行われた大規模震災対処訓練「みちのくALERT2014」に第11旅団、北部方面施設隊及び北部方面航空隊を参加させました。

「みちのくALERT2014」は、東北方面隊が東日本大震災における災害派遣活動の教訓を踏まえて、各自治体及び関係機関との連携要領を訓練し、自衛隊の震災対処能力の向上を図るとともに、自衛隊と米軍及び豪州軍の連携要領を確立することを目的に行われ、自衛隊及び東北6県53市町村75機関並びに在日米陸軍・海兵隊、豪州軍が参加し、初動対処、人命救助、インフラ復旧等の訓練が行われました。

北部方面隊から参加した第11旅団は、宮城県沖震災対処における部隊機動、東北方面総監部との部隊展開に係わる調整、東北地区への増援に係わる実効性の向上を図るため、真駒内駐屯地から岩手県岩手山演習場に向け前進、演習場到着後は、機能別訓練を行うとともに、翌日には、岩手県内の宮古市運動公園に前進して、人員搜索訓練に参加しました。

人員搜索訓練では「倒壊家屋内の人員搜索」と、土砂崩れ現場での車両からの救出を想定した「土砂崩れ現場搜索」を第9特科連隊と連携して行い、参加した隊員達は真剣かつ緊迫した面持ちで訓練に臨みました。

北部方面施設隊は、第105施設器材隊架橋中隊が参加し、北上川にかかる既存の橋が損壊したという想定の中、東北方面隊と東部方面隊の施設器材隊等との協同により、92式浮橋による橋長220mの浮橋を全通し、各部隊相互の連携要領等について練度向上を図りました。

また、北部方面航空隊は、多用途ヘリコプターUH-1、2機を基幹として参加し、海上自衛隊輸送艦「くにさき」へのDMAT（災害派遣医療チーム）空輸、「くにさき」から石巻専修大学への患者空輸及び離島への通信器材（NTT、KDDI等）空輸などを実施して、海上自衛隊をはじめ、関係機関と連携したヘリの運用について能力を向上するなどの成果を得ました。

北部方面隊は、本訓練を通じて、東北方面隊との連携を更に深め、全国規模で生起するあらゆる事態に即応する態勢を強化する上で貴重な成果を得ることができました。



岩手山演習場への前進



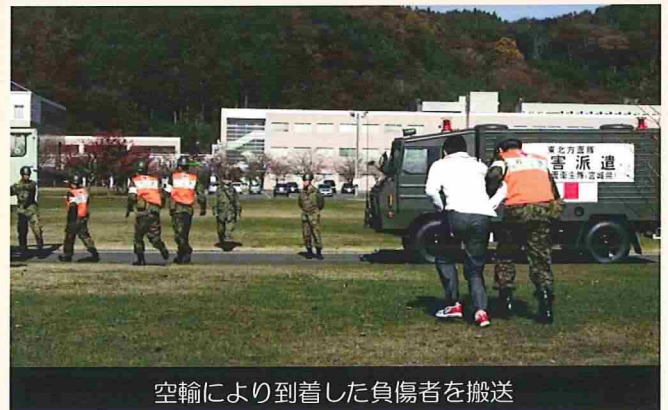
北上川に全通した92式浮橋



倒壊家屋内の人員搜索訓練



UH-1による負傷者の空輸



空輸により到着した負傷者を搬送

## 海上自衛隊 函館基地隊 鹿部漁港沖旧日本軍の爆弾処理(大湊水中処分隊)!



平成26年11月6日(木)に鹿部漁港沖で発見された旧日本軍爆弾(11個)は、去る12月2日(火)、現地災害対策本部(本部長:川村茂鹿部町長)が見守る中、11時15分に水中爆破処分されました。

爆破処理を実行したのは、海上自衛隊大湊警備隊(司令:小杉正博1等海佐)が指揮する大湊水中処分隊で、発見以来、十分な現地調査や事前訓練を行い本番に臨みました。

当日の海上模様は比較的穏やかであったものの、時おり小雪が舞う厳しい寒さの中、順調に作業が進み、予定時刻を45分早め、安全に処理を完了しました。

今回の爆破処理においては、地元漁協を含め、多方面にわたる関係機関との理解と協力が得られたことから短期間で処理することができた珍しい事例であり、爆破の瞬間には、爆発音と同時に約40メートルの水柱があがり「おおー」という声があがりました。

爆破後、水中処分隊員が確認潜水を実施し、爆弾の完全爆破を確認したうえで本部長から安全宣言が発表されました。

報道陣のインタビューで本部長は、「無事に終わって良かった。これで町民及び漁業者も安心できたと思う。」とコメントしました。



爆破処理を指揮した海上自衛隊大湊警備隊司令 小杉1等海佐



発見された旧日本軍の爆弾を処理

## 航空自衛隊 襟裳分屯基地 ～風極の地 襟裳岬に在る第36警戒隊～



航空自衛隊襟裳分屯基地が所在するえりも町は、風が大変強いことで有名であり、風速30kt(ノット:15.4m/s)以上を観測する日が年平均で175日、50kt(25.7m/s)以上を観測する日が年平均で27日もあります。気温は道内の他地域と比較し、夏低く、冬高いこと、夏季に霧が多く、冬季に降雪が少ないことが特徴です。

また、昆布が名産品であり、夏から秋にかけては、海岸沿いに水揚げされた昆布が多数天日干しされている姿を見ることができます。

襟裳分屯基地は、周辺を日高山脈襟裳国定公園に囲まれ、えりも町市街地から約12kmの遠隔地で、襟裳岬北方の風光明媚な場所にあります。

当分屯基地は昭和26年の米空軍レーダーサイト建設に始まり、昭和29年に航空自衛隊が展開、昭和33年に米空軍より航空自衛隊に移管、当地に展開してから今年で60周年の記念すべき年を迎えました。

現在、当分屯基地は幾度かの改編等を経て第36警戒隊が所在しており、警戒管制レーダー装置を装備し、24時間態勢で我が国の領空の警戒監視の任に就いております。また、地域との交流にも努めており、植樹祭参加、秋祭り御輿支援、海と山の幸フェスティバル参加等を通じて、地域社会に貢献しております。

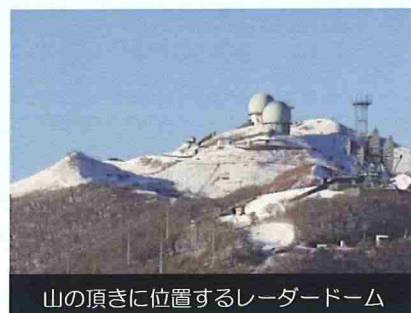
襟裳岬にお越しの際には、岬の展望台から日高山脈を望めば、山の上にレーダードーム等を見ることができます。



第36警戒隊隊舎



冬季における防災訓練



山の頂上に位置するレーダードーム

# 北海道内の防衛施設



旭川駐屯地

## 防衛施設歴史散歩

### ～第2師団旭川駐屯地史料館を巡る～



北鎮記念館の外観

北鎮記念館は、北海道最北端の防衛警備を担当する第2師団主力が駐屯する旭川駐屯地に隣接しています。

始まりは、昭和37年5月初代和田師団長が日露戦争で捕獲したコサック騎兵の軍刀を旭川警察署から届けられた事をきっかけに、道内各地に散逸している旧陸軍第七(シチ)師団を初めとする資料を幅広く収集しようと発意したのが始まりです。8月には当時機密書類であった「第七師団歴史」が、当時の担当者であった黒川氏から届けられたのが発端となり記念館の設立となります。昭和39年に遠軽駐屯地の隊舎を移設し初代北鎮記念館が駐屯地内に開設します。その後施設の老朽化、収蔵品の増加に伴ない狭隘化が深刻となるなか、「記念館をもっと身近なものに」という地域の方々の要望もあり、官民一体となって平成19年6月10日現在地にオープンしました。外観は旧陸軍第七師団兵器部兵器庫をモチーフにし、昭和の初め師団通りを照らしたすずらん灯を正面に2つ復元し当時を偲ぶデザインとなっています。扉をくぐると北海道の開拓と防衛に携わった屯田兵や旧陸軍第七師団の資料約2,500点を展示しています。

明治維新の頃北方の脅威に対し北海道の開拓と防衛が急務となる中、明治8年屯田兵制度が始まり、その後日清戦争が勃発、終戦後兵力不足を補うため明治29年第七師団を創設、明治34年には主力を旭川に移駐、旭川は軍とともに急速に発展してゆくことから「軍都」と呼ばれました。この間日露戦争、太平洋戦争での分水嶺となるガダルカナル島など先人の労苦と功績を偲び、足跡を永く後世に伝える事を目的とした資料館です。あわせて、陸上自衛隊第2師団の活動の歴史を紹介し陸上自衛隊に対する理解を深めて頂く場としてもご利用頂ければ幸いです。平成25年度は全国各地から、また地域の小中高校生などの郷土の歴史を学ぶ場として約2万名の方々が当施設を訪れました。

北鎮記念館からは「年間を通じ各種イベント及び企画展を行い地域に根ざした資料館として皆様のご来館をお待ちしています。」とのコメントがありました。

※入館及び観覧は無料、駐車場は普通車25台・大型バス3台・身障者用2台の駐車場完備  
お問合せ 電話0166-51-6111(内2486/2496)



第七師団歴史(旭川市文化財)



ガダルカナル島を前進する一木支隊

第2師団紹介コーナー



1Fホールでの各種イベント

## 防衛施設所在の首長さんからのメッセージ



旭川市  
西川将人 市長

旭川市は、上川地方中部に位置し、雄大な大雪山連峰に抱かれ、石狩川をはじめとする多くの河川が流れる豊かな自然に恵まれたまちです。

行動展示で注目を集め、国内外から多くの観光客が訪れる旭山動物園は、ますます賑わいをみせており、2014年8月には、開園以来の総入園者数が4,000万人に到達し記念セレモニーがおこなわれたところであります。

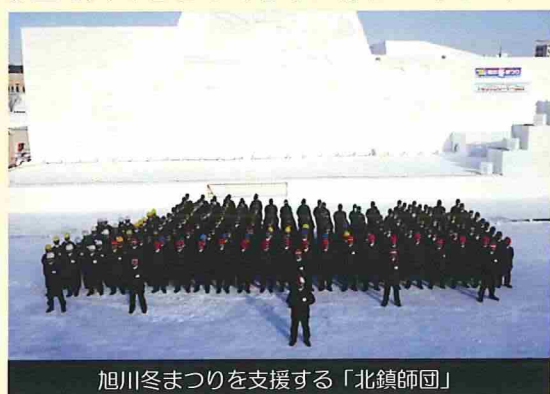
また、道北の味覚が一同に集う「北の恵み 食ベマルシェ」は、開催5年目を迎え、過去最高の延べ108万5千人が訪れるなど、地域を代表する一大イベントに発展しました。

さて、市内には、新鋭装備を有する総合近代化師団・第2師団の司令部をはじめとする精鋭部隊が駐屯しており、道北地域の安心、安全を守る上で欠くことのできない存在であると共に、

国際貢献や災害支援などにおきましても、真っ先に海外へ派遣され、任務を遂行しております。

日々の厳しい訓練に加え、冬まつりにおける雪像製作やクロスカントリーの大会でありますバーサーロペット・ジャパンのコース整備など当市のイベント開催に多大なる御支援をいただいているほか、師団創立及び駐屯地開設記念行事、盆踊り大会をはじめ、年間を通じて多くの地域住民と交流を行うなど、地域に深く根ざした北鎮師団として親しまれております。

当市にとりまして、自衛隊は共存共栄してきた大切なパートナーでありますことから、今後も、地域と自衛隊が連携し、共にまちづくりを進めて参ります。



旭川冬まつりを支援する「北鎮師団」



## 防衛施設と周辺地域との調和を図るために ～特定防衛施設周辺整備調整交付金の事業の紹介～

今号では、特定防衛施設周辺整備調整交付金の事業をご紹介します。

特定防衛施設周辺整備調整交付金は、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第9条に基づき、ジェット機が離着陸する飛行場や砲撃などが実施される演習場などの防衛施設の設置又は運用により、周辺地域の生活環境やまちづくりに大きな影響を及ぼしている市町村に対して、公共用の施設の整備又は生活環境の改善や開発の円滑な実施に寄与する事業に充てるため交付されるものです。

北海道防衛局では、特定防衛施設が所在している市町が、「交通施設」の事業として市町道の整備、街路灯、道路標識、道路パトロール車の整備、「教育文化施設」の事業として学校施設の整備、公民館、図書館、集会所、学校用パソコンの整備、「医療施設」の事業として病院、診療所、保健所、巡回診療車の整備などの公共用の施設の整備又は生活環境の改善若しくは開発の円滑な実施に寄与する事業に充てるため当該交付金を交付しています。参考：北海道防衛局ホームページ：<http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/>

広報誌第35号（26年8月発行）では、この交付金を活用した「消防に関する施設」の事業として消防ポンプ車等の整備についてご紹介しましたが、ここでは、平成25年度に別海町が、当該交付金を活用し整備した交通施設（ロータリー除雪車の整備）と教育文化施設（スクールバスの整備）についてご紹介します。

### ロータリー除雪車の整備

別海町では、毎日運行しているスクールバスや牛乳集配のためのタンクローリー車等の冬期間の安全・確実な運行を確保するため、道路の除雪を迅速に行うことが必要として、平成25年度にこの交付金を活用しロータリー除雪車（1台）を更新しました。

これにより、冬期における道路の除雪が迅速化され、生活道路や通学路の安全性の確保に貢献しています。

別海町：除雪車の整備



担当署員の声：

老朽化した車両から最新の除雪車へ更新したことで、除雪体制が強化され、冬期間の生活道路や通学路の十分な幅員を確保することが容易になり、地域全体の安心・安全に貢献するものと考えます。

住民の声：

新しい除雪車は、すごく静かで馬力があり、雪を遠くに飛ばして道路の安全を確保してくれて、とても助かってます。

### スクールバスの整備

広大な面積を有する別海町では、公共交通機関が非常に少ないことから、児童生徒の遠距離通学の緩和や通学の安全確保のため、スクールバス22台を保有し運行（5路線）していますが、その内1台が整備後15年以上経過し、走行距離も41万キロに達するなど老朽化が著しいことから、当該交付金を活用し更新しました。

これにより、通学に利用する児童生徒の安心・安全の確保に貢献しています。

別海町：スクールバスの整備



担当署員の声：

公共交通機関の少ない地域では、児童の通学手段の確保が重要な課題となっていますが、今回老朽化した車輛を更新したことで、従前より安全な通学手段を確保でき、通学する児童生徒の安心・安全に貢献するものと考えます。

利用者の声：

古いバスは、冬はすごく寒く、シートも破けてたりしてたけど、新しいバスは暖かく乗り心地も最高です。

いずれも、この交付金事業が防衛施設周辺の住民の方々の安全・安心を守るために役立てられています。

当局としましては、今後とも地域住民の方々の生活の安全性や利便性等の向上、教育・文化、医療・福祉、産業等の振興に寄与するよう努めてまいります。

# 支局だより・事務所だより

## 〇帯広防衛支局

### ～ 陸上自衛隊美幌駐屯地ボイラー施設更新整備工事の紹介 ～

陸上自衛隊美幌駐屯地は、網走郡美幌町に所在する道東地区における第一線部隊として、美幌町やオホーツク沿岸地区の防衛・警備及び災害派遣等、重要な任務を担っています。

この度、帯広防衛支局は、当該駐屯地内のボイラー施設の更新工事を実施しました。ボイラー施設は、主に庁舎、隊舎等の暖房及び食堂・厨房・浴場施設等の給湯に必要な蒸気を発生させる装置（ボイラー）とボイラーを稼働するため必要な燃料の貯油槽（燃料タンク）で構成される施設のことです。隊員の業務・生活環境を支える基盤として年間を通し必要不可欠な重要施設です。

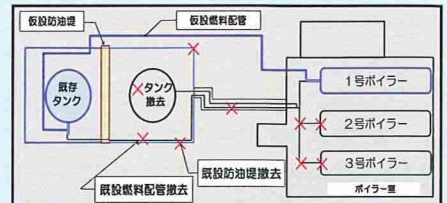
これまで当該駐屯地で使用してきたボイラー3基と屋外地上式の燃料タンク2基の内1基については、経年による老朽劣化が著しく、頻繁な故障等による部品交換などによる運用への支障が生じていたため、ボイラー3基については経済性及び保守管理性を考慮し2基に集約化して更新する計画として、平成26年4月に着手し、同年12月に完成したものです。

ボイラー施設の機能の全停止は、部隊運用に支障が生じることとなるため、ボイラー施設の機能の一部を運用したままで工事を進めていかなければなりません。更に、冬期間には-20℃まで達する厳寒の当地では、ボイラー施設の能力を低下させることができないため、冬本番までに暖房の本運用を可能にしておく必要があります。この工事では、既存1号ボイラーを仮運用させた状態（図1）で工事を行い、既存屋外地上式の燃料タンク及び2号、3号ボイラーを撤去・更新した後、新燃料配管に切り替えを行い（図2）、最後に仮運用の1号ボイラーを撤去し、サービスタンク等新設（図3）する計画としました。

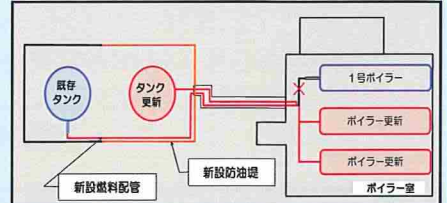
また、既存屋外地上式の燃料タンクの更新では、油流出防止用の防油堤を全て更新せず、運用中の既存燃料タンク部分の既存防油堤を一部活用し、新設する燃料タンクとの境界に仮設の防油堤を設け流出防止を図り、経済性及び安全性にも配慮しました。

一方、ボイラーの稼働には、消防による安全確認のための検査を受ける必要があります。この計画では、工事の進捗状況に応じて稼働部位が変わるため、計画的に検査を受けていかなければ、隊員が冬期を過ごすために必要な暖を届けることができなくなります。部隊担当者との蒸気管等の切り替え作業に係る調整や受注者との作業時間の短縮調整を踏まえた地元の消防本部と検査時期の綿密な調整によるしっかりとした工程管理を実現したことで、部隊運用への影響を最小限に抑え、予定通りに工事を完成させることができました。

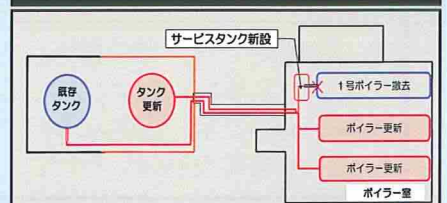
帯広防衛支局では、これからも部隊の運用所要に迅速かつ的確に応えたユーザーに喜ばれる施設を提供していくための技術力向上に努めてまいります。



【図1】 仮設燃料配管・仮設防油堤設置後、燃料タンク及びボイラーの撤去



【図2】 燃料タンク及びボイラーの更新



【図3】 仮運用1号ボイラーの撤去



燃料タンク更新  
(写真左側)

ボイラー更新 2基

## 〇千歳防衛事務所

### ～ 自衛隊記念日コンサート ～

平成26年11月24日、恵庭市民会館大ホールにおいて恵庭市自衛隊協会と陸上自衛隊北海道補給処（島松駐屯地）の共催による自衛隊記念日コンサートが開催されました。このコンサートは、自衛隊記念日（11月1日）に合わせて平成21年から毎年11月に行われているもので、今回で6回目を迎える恒例の行事となっています。当日は来賓や市民ら約830人の来場者で会場は満席となりました。北海道防衛局からも杉田局長、杉本所長が出席しました。

第1幕では、地元恵庭市の北海道文教大学吹奏楽部がコンサートマーチ「アルセナール」や大ヒットしたディズニーのアニメ映画の主題歌「レット・イット・ゴー」などを、続く第2幕では、陸上自衛隊の北部方面音楽隊が行進曲「無敵の鷲」や耳になじみのある日本の曲がメドレーとなった「ジャパニーズ・グラフィティ」などを披露。それぞれ息のあった演奏に会場からはアンコールを要望する熱い拍手が送られ、盛況のうちにコンサートは終了しました。

(写真提供：陸上自衛隊島松駐屯地広報班)



北部方面音楽隊の演奏

### 自衛隊旭川地方協力本部～本部庁舎が昨年2月に新しく生まれ変わりました～



国道40号線から見た新本部庁舎

自衛隊旭川地方協力本部は、昨年2月に念願の新庁舎が完成し、同年7月に創立8周年記念祝賀式及び新庁舎落成式を行いました。

旭川地本は、昭和31年8月1日、旭川市にある常盤公園で自衛隊旭川地方連絡部として産声を上げ、平成18年7月自衛隊旭川地方協力本部に改編され、今年で編成完結後59年、改編後9周年を迎えます。

◎ 連絡先 自衛隊旭川地方協力本部  
〒070-0902 北海道旭川市春光町国有無番地 電話：0166-51-6055 電話/FAX：0166-51-6060  
HP：http://www.mod.go.jp/pco/asahikawa/

### 旭川駐屯地で予備自衛官5日間招集訓練

自衛隊旭川地方協力本部（本部長：川嶋幾夫1等陸佐）所属の予備自衛官104名は、11月7日（金）から11日（火）までの間、第2特科連隊（旭川）が担任する予備自衛官招集訓練に参加しました。

この訓練で、旭川地本は予備自衛官等制度教育を実施し、即応予備自衛官への志願や隊友会への加入を促進しました。また、予備自衛官等希望者の情報提供、自衛官募集及び再就職支援に関する情報提供を依頼しました。

2日目の訓練終了後予備自衛官は、訓練担任部隊との懇親会に参加しました。訓練担任部隊からは、第5大隊長、第3係主任及び訓練担当幹部が参加し、懇親会を囲むとともに、活発な意見交換を行いました。第2特科連隊での懇親会は今回が初めてであり、予備自衛官及び訓練担任部隊から大変有意義なものであったとの声が聞かれ、今後の訓練意欲向上を図ることもできました。

職種訓練（特科）では、平成25年度3月末に全国の特科部隊に先駆けて第2特科連隊に導入された火力戦闘指揮統制システム（FCCS）を使用した訓練を受けました。予備自衛官の多くは、最新の装備品の操作訓練を受け、防衛招集等に備え、即応性を向上させました。

訓練最終日、永年勤続者等表彰式を行い、総監顕彰2名、本部長からの永年勤続表彰1名を表彰し、永年にわたる功績を労いました。



導入されたFCCS



FCCS操作要領の説明



予備自衛官制度の教育

### 採用試験合格者とその家族に対し自衛隊見学会を実施



隊員との懇談

自衛隊旭川地方協力本部（本部長：川嶋幾夫1等陸佐）は、12月9日及び17日に旭川駐屯地において自衛隊見学会を実施しました。この見学会は、採用試験合格者及びその家族に対し、自衛隊の職場や生活環境を見てもらうことで自衛隊に対する関心を高めてもらうとともに入隊前の不安を取り除いてもらうと企画したものであり、両日合わせて79家族126名が参加しました。

駐屯地の見学では、事務所や整備工場など、隊員たちが普段勤務している様子を見ていただき、家族から「自衛隊＝訓練のイメージがあったけど、いろんな仕事があるんですね。」といった声が寄せられました。また、隊員が居住する生活隊舎の見学のほか、今年度入隊した隊員との懇談も行い、採用試験合格



生活隊舎見学



管制気象隊事務所見学

者から「入隊してからのイメージが湧いた。」などの感想や、家族からの休暇や外出などの日常生活についての質問がありましたが、現職隊員から生の声を聞き自衛隊生活に対する理解を得ることができたとの声を頂きました。両日も肌寒い天気でしたが、遠方からも多数の家族が参加され、充実した見学会を行うことができました。



# 平成26年度 自衛官等募集



募集種目	自衛官候補生（男子）	予備自衛官補	
		一 般	技 能
応募資格	18歳以上27歳未満の者	18歳以上34歳未満の者	18歳以上で募集案内に定める国家資格等を有する者
受付期間	最寄りの自衛隊地方協力本部へお問い合わせ下さい。	平成27年1月8日（木）～3月24日（火）	
試験期日	札幌：27年2月21日（土） 函館：27年2月14日（土）15日（日） 3月 8日（日） 9日（月） 旭川：27年2月20日（金）21日（土）27日（金）28日（土） 3月 8日（日） 9日（月） 帯広：27年2月14日（土）15日（日） ※細部は最寄りの自衛隊地方協力本部へお問い合わせ下さい。	27年4月10日（金）～4月14日（火） ※いずれか1日が指定されます。	
合格発表	試験終了後に通知されます。	27年5月15日（金）	

◆他の種目や詳しい内容は最寄りの自衛隊地方協力本部へお問い合わせ下さい。



札幌地方協力本部  
011 (631) 5472



函館地方協力本部  
0138 (53) 6241



旭川地方協力本部  
0166 (51) 6060



帯広地方協力本部  
0155 (23) 5882

◆募集コールセンター 守ろうみんなの国  
 **0120-063792**  
年中無休受付時間 12時～20時



自衛官募集ホームページ  
<http://www.mod.go.jp/gsd/f/jaikanbosyu/>

自衛官募集 検索

自衛官募集携帯サイト



## 2～3月の道内自衛隊の主なイベント

開催日	開催場所	イベント名	お問合せ	
2月 7日(土)	函館市民会館 大ホール	航空自衛隊音楽演奏会 「大空のステージ In HAKODATE」	函館地方協力本部	0138-53-6241
2月 28日(土)	旭川市大雪クリスタル ホール 音楽堂	第2音楽隊 室内楽演奏会	第2音楽隊	0166-51-6111
3月 7日(土)	北海道立道民活動セン ター かでる2・7	北部方面音楽隊 第19回室内楽演奏会	北部方面音楽隊	011-581-3191
3月14日(土)	千歳市民文化センター 大ホール	第39回第7音楽隊定期演奏会	第7師団司令部 広報渉外班	0123-23-5131
3月21日(土)	釧路市民文化会館	釧路駐屯地 第38回釧路自衛隊ミュージックフェス	釧路駐屯地 広報班	0154-40-2011

### さっぽろ雪まつりを支援 ～第11旅団～

2月5～11日に開催される第66回さっぽろ雪まつりに向け、陸上自衛隊第11旅団は、「さっぽろ雪まつり協力団」を編成し、1月7日に大通り8丁目会場で編成完結式及び雪輸送開始式を行いました。

編成完結式の中で渡部博幸旅団長は、「活動の良否は雪像の評価を左右するだけではなく、国内外の来訪客に組織力・任務達成能力をアピールする絶好の場である事を忘れてはならない。」と訓示しました。

今年の自衛隊による雪像制作は2基で、大通り4丁目会場では「雪のスターウォーズ」、8丁目会場では「春日大社・中門」を製作しており、「春日大社・中門」制作隊の棟梁（雪像制作隊の技術部長の慣例的な呼び名）である二唐1曹は、「棟梁として、責任の重さを痛感する。しかし、雪まつりの雪像制作は十分精通していると思っており、また、春日大社の緻密さは、制作隊の得意とするアイスクロック工法に適しているので、必ず200万人にも及び観光客の皆様感動を与えてみせる。」と力強く語っていました。

雪まつりが成功に終わるよう「さっぽろ雪まつり協力団」は、2基の大雪像の制作や維持補修、セレモニーにおける音楽隊による演奏等、全ての日程が終了する2月13日まで支援を行います。



「雪のスターウォーズ」の完成模型



「春日大社・中門」の完成模型



大通り8丁目会場で制作が進む「春日大社・中門」